

ネコはヒトの何を見ているのか

高木佐保

(動物心理学者)

わたしたちを日々癒やしてくれるネコたちは、実に気まぐれ。
野良ならまだしも、飼い主が名前を呼んでも無反応であることは
少なくない。飼いイヌならこうはならないだろう。ネコは飼い主の存在や
発する言葉をどう認識しているのだろうか？

私はネコが大好きだ。保護ネコだった二匹の兄弟ネコと共に暮らしているが、その「好き」度は毎日更新され、メーターはとうに振り切っている。誇張ではなく、本当にそうなのだ。サラサラの毛に顔をうずめながら、こんなにかわいい動物が家に一緒に生活してくれるなんて私は前世でどんな徳を積んだのだろうか、と日々思う。その妖艶な姿、かわいらしい顔、柔らかな被毛、抜群の運動能力、気まぐれに甘えてくる様子、全身を使ってヒトを魅了してくるネコ。こんなに完璧な生物はいるだろうか。大昔、(ヤマ)ネコを初めて見たヒトが彼らと過ごしたいと思うのはごく自然なことだったのではと思う。それくらい、ネコはかわいい。そのかわいさにメロメロになるあまり、ネコの心理学者というよくわからない職業に就いてしまった。

当たり前であるが、野生動物を家庭で飼育することは難しい。攻撃性や排泄の問題などからヒトとの生活に馴染めず、お互いにフラストレーションがたまってしまふ。イヌやネコは「家畜化」された「伴侶動物」であるため、それが可能だ。しかし皆さんもおわかりのように、同じ「家畜化」された「伴侶動物」であっても、イヌとネコとは性格(行動)が全然違う。クロス・マーケイティングが二〇一八年にイヌやネコのイメージを調査した報告によると、イヌのイメージは「人懐こい」「忠誠的」「賢い」といった言葉が並ぶ一方、ネコはというと、「気まぐれ」「自由」「わがまま」といった言葉が並ぶ。このようにイヌ・ネコのイメージは正反対といってもいいかもしれない。

実際、学術論文でも確かめられていて、荒堀みのりらが二〇一七年に発表した研究によると、ネコはイヌと比較して友好性や共感性に欠けると認識されているらしい。同じようにヒトと同居を共にし、日本のみならず世界でも伴侶動物の二大巨頭として君臨しているこの二種は、どうしてここまで違うのだろうか。そこには進化の歴史が関係している。

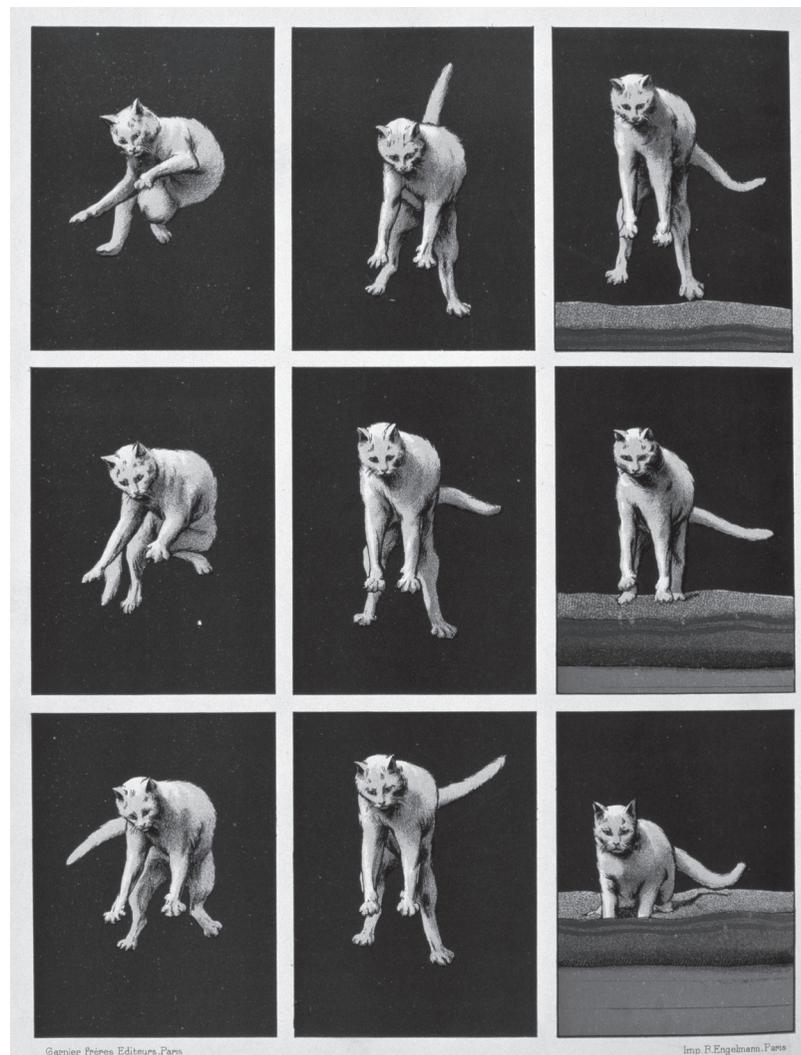
ネコとイヌの家畜化の歴史の違い

イヌの祖先種はオオカミといわれている。オオカミは非常に社会的な動物で、集団で生活をし、狩りを行う。そのため、他個体と交流するために社会的なコミュニケーションの仕方が多く備わっている。イヌとヒトは狩猟採集時代から共生が始まったといわれており、その歴史はおおよそ一万五〇〇〇年以上前に遡るとされる。その長い歴史の中で、ヒトは人為的に、様々

この続きは本誌でございませー！

ネコとヒトの心のサイエンス

ネコが高いところから落ちて見事に着地を決めるのはなぜか？
一九世紀に撮られた連続写真。アフロ



ネコはサイエンスとも相性がいい。その習性、運動神経にもまだ謎が多く、その心理をヒトはなんとか掴もうとするが、掴みどころがない。このPartでは様々な研究を通して、ネコの「得体」を追求。

Part